

書写の「**レ**」が知りたい!

菅のり子

大阪教育大学教授。奈良教育大学特設書道科卒業、同大学院修士課程(美術教育)修了、大阪大学大学院博士課程(芸術学)単位取得退学、文学博士。主著は『書芸術の地平―その歴史と解釈―』(大阪大学出版会)2000年。書をアジア的美意識との関係で捉えることに取り組んでいる。近年は鑑賞教育の研究を手がけ、書写書道の授業における実践を目指している。



質問 文字を書くのが苦手です。書写の授業で心がけられることはありますか？

回答 教科書には手本となる整った文字が示されています。書写の授業を担当する教師がこのように書けることは理想です。しかし現実には、そう

うまくいかないかもしれません。でも、苦手だから書写の授業はできない、担当したくない、と避けてしまうのは少し待ってください。児童の中にも文字を書くのが苦手な子どもはたくさんいます。苦手な先生には、苦手な子どもたちの意識を立てるといふ利点があります。

では、範書がうまくいかないのは何故でしょうか。もしかしたら、教科書の手本そっくりに書くことを目的にしているからではありませんか？ そうだとすると、その意識をまず取り払ってみてください。

教科書の範書は、雛形であり、あくまでモデルです。唯一絶対の「形」ではありません。整っていて、心をひきつける書きぶりですから、「そっくりに書きたい」という気持ちが湧いてきたら、それは大切にしたいです。また、原型的にも同じ形を再現するのは無理なことです。

教科書の手本には、読み取っていただきたいポイントがあります。それは、どの教材の範書にも図られている「バランス」です。文字の組み立てや配置を学習する際に不可欠の意識は、一文字の中でいえば点画と点画との間の関係であり、短い画と長い画とのつりあい方です。書こうとする言葉全体として見れば、一字一字の紙面に対する文字どうしの間隔や大きさの調和、つまり「バランス」を感じ取ることが大事になり

ます。

たとえば「大」という字を書いてみましょう。一本の横画を書いたら、その横画に対して次の画をどのように加えていくか、どうするとバランスが取れるかを意識します。左払いが勢いよく飛び出しました。「手本より大きくなり過ぎて失敗した」と捉えるのではなく、その左払いがバランスを保てるように右払いを書きます。書き上げた文字の大きさは全体として大きくなり、紙面にうまく収まっていなくてもいいかもしれません。また、教科書の範書とは違った形になっているかもしれない。しかし、一文字としてのバランスは取れていて、生き生きとした運筆になっているのではないのでしょうか。

次に書くときには、左払いがもう少し小さな軌跡になるように心がけます。すると、その画に見合った右払いが書けるようになります。紙面への収まりもぐんと良くなっていくはず。このように、手本と自分の文字を比べるのではなく、手本に示された点画どうしの関係を読み取ります。そうすると、教師と子どもたちがともに、自身の書く文字に対して鋭敏になってきます。

この意識を育くむことで、授業の質は大きく変わります。「教科書を習う」のではなく、書き手が主体となって範書の良さを発見し、同時に一人ひとりのもつ書の良さを育てることにつながっていくからです。

特集

新版教科書はこう変わる!

平成**23**年度版

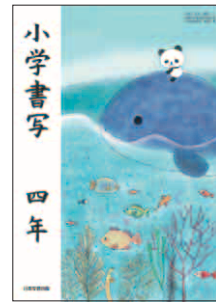
新版 小学書写

教科書の内容紹介

今春、新しい学習指導要領に対応した教科書ができあがりました。新版「小学書写」は、次世代を担う子どもたちが、生涯にわたって使う文字を正しく整えて書けること、そして学びをもとに豊かな発想で活用する書写力を身につけること、さらには、国語に親しみ、尊重する態度を育むことを基本方針として編集にあたりました。来年度からの使用にさきかけ、「小学書写」の内容をご紹介します。



新しい教科書で 確かな書写力を。



Point 1

基礎・基本を無理なく 習得できる「新しい」教科書

各学年とも書写の基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができるよう、系統的・段階的に学習を進められるように構成しました。さらに、学習意欲や興味・関心を高めながら学習に取り組めるよう工夫しました。

筆の持ち方をたしかめよう	書くしせいをたしかめよう	用具の置き方をたしかめよう	文字を見つけてよう	学習の進め方
2	3	4	5	6
筆の持ち方をたしかめよう	書くしせいをたしかめよう	用具の置き方をたしかめよう	文字を見つけてよう	学習の進め方
2	3	4	5	6
筆の持ち方をたしかめよう	書くしせいをたしかめよう	用具の置き方をたしかめよう	文字を見つけてよう	学習の進め方
2	3	4	5	6
筆の持ち方をたしかめよう	書くしせいをたしかめよう	用具の置き方をたしかめよう	文字を見つけてよう	学習の進め方
2	3	4	5	6
筆の持ち方をたしかめよう	書くしせいをたしかめよう	用具の置き方をたしかめよう	文字を見つけてよう	学習の進め方
2	3	4	5	6

目次の「できたかな？」に自己評価を記録することで、1年間の書写学習の足跡を残すことができます。

Point 2

国語科の目標を達成する 「学びやすい」構成

児童の主體的な学びを促す「扉」を、全学年の各単元に設定しました。書く楽しさを味わい、課題に気づき、興味をもって学習に臨むことで、国語科の目標を達成できるようにしました。



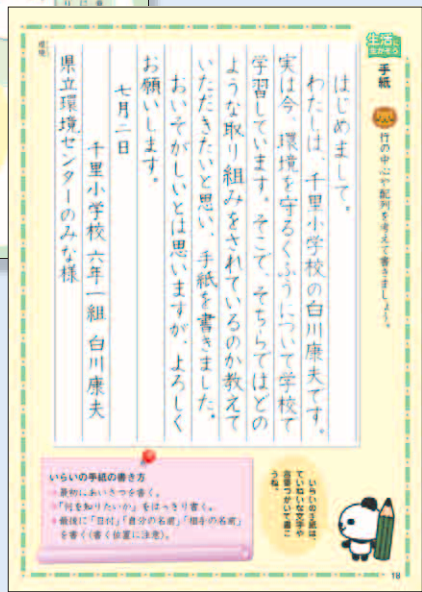
上)2年P.22-23
下)2年P.26-27

2年P.21

Point 3

書写力を活用して「感じる」 書くことのたいせつさ

児童が文字そのものに興味・関心をもち、さらに書くことについて追求していこうとする態度を育んだり、他教科や総合的な学習の時間などとの関連のなかで、書写で学習したことが日常生活で活用したりできるように配慮しました。



6年P.18

Point 4

国語科書写から「育む」 豊かな人間性

各学校での道徳教育の指導内容が児童の日常生活に生かされるように、道徳的心情を育むことのできる内容を扱った教材を数多く掲載しました。



5年P.30-31

2 正しい字形を正確に

硬筆書写の初期では、腕全体を動かしてなぞり書きをしたり、教科書に書き込んだりすることで、字形を正確に理解できるようにしました。



1年P.8

3 片仮名指導の重視

日常生活にあふれる片仮名表記に対応し、平仮名や漢字だけでなく、片仮名にも重点を置いて学習できるように単元を構成しました。



1年P.36

4 筆記具の特性を学ぶ

一度書いたら書き直せないフェルトペンを使って、注意して書くこととする態度を養い、集中力を高められるようにしました。



2年P.20

1 持ち方を確かめながら

文字学習の前には線遊びを取り入れ、文字の基礎・基本を学習できる書写活動に発展させられるようにしました。



1年P.4・5

5 書写力を生かして「伝え合う」

書写の時間に学習したことを生かして、身近な出来事を友達や家族、先生に伝えられるように、教材の内容をくふうしました。



2年P.14

1年P.17

1 筆圧や筆の特性を知る

初めて筆を持つ子どものために、文字を書く前に知っておくべき筆の特性を、一つずつ丁寧に学べるように構成しました。



1年P.4・5

5 文字や言葉を正しく身につける

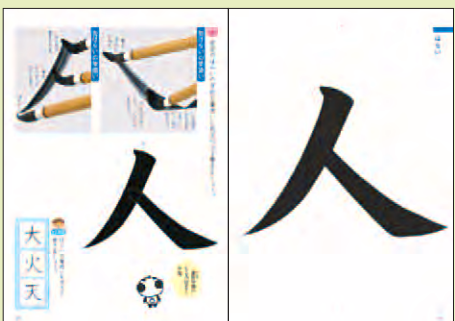
依頼状や案内状、礼状といった実用的な手紙を書くことで、言語感覚を養い、日常生活が豊かになるようにしました。



4年P.32-33

2 基本点画の筆使いを学ぶ

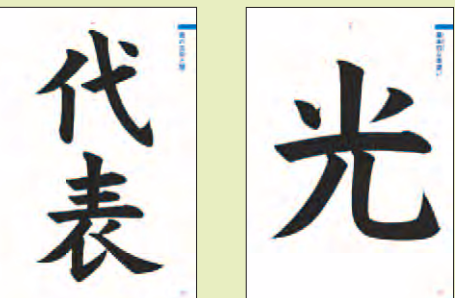
三年では、点画の種類を理解することに重点を置き、基本的な筆使いを薄墨の連続写真などを用いながら学習できるようにしました。



1年P.16-17

3 学んだことを積み重ねて

四年では、三年で学習した基本点画をふまえ、組み立て方を学べる文字を選定しました。部分と部分、左右・上下の組み立て方というように、系統的に繰り返し学ぶことで、書写力が確実に定着する構成にしました。



4年P.14

4年P.10

4 穂先の動きを視覚的に確かめる

毛筆教材で学習した筆使いを確かめられるように、三年以上の巻末に筆使いのまとめを掲載しました。また、三年には穂先の通り道を実際に書いて確かめるコラムを設定しました。



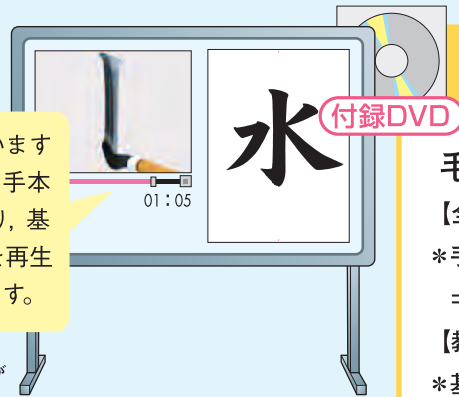
3年P.34

3年P.42-43

学年別 教師用指導書

教材ごとの指導のあり方や授業の流れを、わかりやすく丁寧に解説します。朱書編と研究編から成り、巻末には「学習指導案例」と自己評価のための「書写カード」を掲載しています。

また、補助教材として、毛筆教材の「原寸大資料」(3～6年のみ)と、デジタル教材を収録したDVDが付録されています。これには詳細な取扱説明書が付いていますので、誰でも簡単に操作することができます。



電子黒板に対応していますので、教科書掲載の毛筆手本文字を拡大表示させたり、基本点画の筆使いの動画を再生させたりすることができます。

※デジタル教材は現在開発中のため、実際の製品とは仕様が異なる場合があります。ご了承ください。



裏面は、かご字と穂先の通り道による表示になっています。また、付録DVDから毛筆練習用紙を印刷することもできます。

付録DVDのデジタル教材には、以下の内容を収録する予定です。

- 毛筆**
【全教材共通】
- *手本文字の拡大表示
⇒かご字への表示切り替え可能
- 【教材による】
- *基本点画の筆使いの動画
 - *画面上で動かせる点画ピース
 - ・1文字用…基本点画
 - ・組み立て方…部分と部分のゆずり合い
 - ・配列…紙面上のバランス
- 硬筆**
- *正しく鉛筆を持つためのくふう など

総論 教師用指導書

総論は、書写指導の考え方を解説する「理論編」実際の授業での指導のポイントを解説する「実践編」原稿用紙や手紙の書き方を解説する「資料編」の3章から成っています。特に、実践編のQ&A形式は、教科書の具体的なページを例に挙げながら指導のポイントを丁寧に解説しているため、書写指導の初心者でも日々の授業を充実させられる、いわば「必携の書」といえます。



1 文字を整えて書くために



五年では、一〜四年の書写学習で学んだことを振り返るところから始めます。反復的に繰り返し学ぶことで、書写力が確実にアップするようにしました。

5年P.8

2 自ら考え、判断する書写力



紙面に対する文字の大きさや配列の学習で身につけた書写力を実生活で生かせるようにすることで、書写力がさらに伸びるようにしました。

5年P.33

5年P.28

書写力がぐんぐん伸びる 5・6年



場面や目的に合った書き方を学び、日常生活に生きる実践的な書写力を養えるように構成しました。

3 場面に合った「書く速さ」を考える



5年P.40-41

「聞いて書こう」は、メモを取るという子どもたちの身近な生活から取材しました。人の話を聞きながら「書く速さ」について考えられるようにしています。

5 伝統と文化をたいせつにする心



6年P.6-7

文字や用具についての興味・関心を高めたり、知識を深めたりできる資料を提示することで、伝統と文化について考えられるようにしました。

4 目的に合った「筆記具」を選ぶ



6年P.20

活字と手書き文字の違いや、筆記具の種類や用途の違いを考えることで、文字を「手で書く」意義について考えられるようにしました。